

(仮称) 千葉袖ヶ浦天然ガス発電所建設計画 (再手続版) に係る環境影響評価準備書
委員から寄せられた質疑・意見に対する事業者の見解

令和7年3月12日委員会資料
株式会社千葉袖ヶ浦パワー

No.	関連ページ	項目	細目	質疑・意見の概要	事業者の見解
1	準備書 P2. 2-33 (37)	事業計画	排出ガス量	(1月17日委員会での質疑・意見) 排出ガス量が方法書記載時よりも若干増えているが、その理由は何か。排ガス中の酸素濃度が変わっているのか。	(1月17日委員会での回答) 根本的な変更はなく、設計の進捗による排出ガス量の微修正とご理解ください。
2	資料1-2 P14	事業計画	温風	(1月17日委員会での質疑・意見) 温風のシミュレーションにはナビエ・ストークス方程式を用いていると思うが、空気冷却設備のイメージを教えて欲しい。外部にチラーのようなものが付くのか。	(1月17日委員会での回答) 車のラジエーターのような設備とご理解ください。資料1-2 P14 図の三角形部分が冷却パネルで、その内部に蒸気が導入され、パネルの外側に空気をファンにより通すことによって蒸気が冷却されて水に戻り、排熱回収ボイラーに送水されるプロセスになります。準備書P2. 2-9の完成予想図でご説明すると、空気冷却復水器に描かれている丸1つ1つがファンとなっており、発電設備1基当たり30個のファンを用いて、大量の空気で蒸気を冷やします。
3	資料1-2 P54~56	調査、予測及び評価	騒音・振動・低周波音	(1月17日委員会での質疑・意見) 騒音や振動等の評価基準に、環境基準、要請限度といった様々な記載があるが、どのように使い分けられているのか。	(1月17日委員会での回答) 騒音については、敷地境界地点では騒音規制法に基づく基準、近傍住居では環境基本法に基づく環境基準が定められており、それらを用いて評価しています。振動については工業専用地域の規制はありませんが、振動規制法に基づく規制基準を準用しています。近傍住居等についても同様に別の評価基準を準用し評価しています。低周波音については決まった基準があるものではないため、環境省の示す参考値を評価に使用しています。

No.	関連ページ	項目	細目	質疑・意見の概要	事業者の見解
4	準備書 P12.1.1.5-13 (749)	調査、予測及び 評価	温風	(1月17日委員会での質疑・意見) 海水冷却を行わず、熱を大気に放出すること としたと理解しているが、排熱の温度はどの程 度なのか。	(1月17日委員会での回答) 第12.1.1.5-5表のとおり、気温34℃の条件下において、 気温に対する排気温度差は+14℃になります。
5	資料1-2 P63	調査、予測及び 評価	温風	(1月17日委員会での質疑・意見) 温風の予測結果の表について、再度説明を 願いたい。	(1月17日委員会での回答) 表の左側は予測の気象条件となっており、風向3ケ ース、風速2ケースの計6ケースを設定しています。 風向は、発電所から住居の方向に温風が流れる風向と して3風向を選定しております。風速については、速さ による温風の拡散傾向を比較するため、各風向で観測さ れた最大風速と平均風速を選定しています。バックグラ ウンドの気温については34℃としています。 表の右側が予測結果となっており、住居地域における 人への影響という観点で、地上高1.5mと5.0mの2高度に おける温度上昇の最大値を記載しています。 例えば風向北北西・最大風速15.1m/sでは、温度上昇 の最大値は0.7℃ですが、これは工業専用地域を除いた 範囲の中で最大の温度影響が出ている場所で0.7℃とい うことを表しています。
6	資料1-2 P63	調査、予測及び 評価	温風	(1月17日委員会での質疑・意見) 風速が速い方が、温度影響が大きくなる ということか。	(1月17日委員会での回答) 地表面への影響としては風速が速いほど、温度上昇値 が大きくなります。準備書P12.1.1.5-25～26の温風影響の 断面図に記載のとおり、最大風速時は、温風が横風に引 っ張られるような挙動を示し地表面近くに流れていきま すが、平均風速時は温風が持つ熱量によって上昇してい く傾向が強くなり、地表面への影響が抑えられる傾向を 示しています。

No.	関連ページ	項目	細目	質疑・意見の概要	事業者の見解
7	資料1-2 P68	調査、予測及び 評価	動物	(1月17日委員会での質疑・意見) 調査結果の両生類3種や爬虫類6種の種名であれば、表中に全て書けると思うので記載しておいた方が良いのではないかと。	(1月17日委員会での回答) 今後の資料作成の際に検討いたします。
8	準備書 P12.1.3-11 (869)	調査、予測及び 評価	植物	(1月17日委員会での質疑・意見) 植物の重要な種は、全て別の場所に移植する等の保全を行うという理解で良いか。その場合、種によって生息域が異なると思うが、まとめて一ヶ所に移植する計画なのか。	(1月17日委員会での回答) 移植については、改変区域内に生育する重要な種の内、工事によって生息環境が大きく損なわれるオオアゼテンツキ、タコノアシ、カワヂシャの3種について移植する計画です。その他の重要な種の生息環境は改変されないため、影響は少ないと考えています。
9	資料1-2 P103	調査、予測及び 評価	温室効果ガス	(1月17日委員会での質疑・意見) エネルギー政策上、本計画が電力の安定供給に重要であることは認識しているが、将来的な水素の利用について、具体的な計画は定まっているのか、それとも概念的に準備しておくという計画なのか確認したい。また、水素を活用することとなった場合の環境負荷について、どのような考えを持っているか説明してほしい。	(1月17日委員会での回答) 現時点で、水素について供給の目処等、具体的に申し上げられる事はありません。水素、e-methane、CCSといった様々な火力の脱炭素化技術が検討されている中で、世界的にも一つの技術に絞られている状況にはないと認識しております。弊社としては、現状ではどのような手段がスタンダードになっても対応できるよう準備をしておくことが重要と考えており、今後も継続的に検討を進めていく計画です。 水素を採用した際の環境負荷については、CO ₂ の排出が削減されるものの、水素の燃焼温度が高いためサーマルNO _x が少し増加する事が考えられます。対策としては、脱硝触媒の積み増しや脱硝用アンモニアの制御変更等による脱硝能力の強化等が想定されます。
10	—	調査、予測及び 評価	温室効果ガス	(1月17日委員会での質疑・意見) 脱炭素の面で、再生可能エネルギー以外の発電所はいかなるものか、という意見をよく耳にするが、電力の安定供給の面でも活用が必要な部分もあるので、その理解を得られるように計画を進めていくことが重要である。	(1月17日委員会での回答) 東京ガスグループにおいても、天然ガスは脱炭素に向けたトランジションエネルギーとして現時点での最適なエネルギーと捉えており、まずは低炭素に取り組み、その先に脱炭素があるという考えです。